美川仏壇の技
神輿を修復

内灘・鶴ケ丘東　漆、金箔を使い

老朽化で修理が進められていた内灘町鶴ケ丘東町会の神輿（みこし）は28日、鶴ケ丘東公民館に届いた。住民は、美川仏壇の伝統技法で見違えるように美しくなり、豪華さを増した姿に喜んだ＝写真。

神輿は約90㌢角で、1996（平成8）年に作られ、鶴ケ丘神社の秋祭りに合わせて約150世帯を巡行している。傷みが激しくなったため、4月に北島仏壇店（白山市）に修理を依頼した。

同社は金箔（きんぱく）を張り替え、漆風のウレタン塗装を天然漆に塗り変えたほか、金具の金メッキを再塗装し、留め具を銅製から耐久性のあるステンレス製に変えた。キリ製の収納箱も作った。総事業費は約260万円で、町会費で賄った。

神輿は30日の秋祭りで住民にお披露目される。松川徹男町会長（74）は「この町会に住んで良かったと実感できるように祭りと神輿を大切に受け継いでいきたい」と話した。